

平成 23 年 3 月 27 日 15:00
東北地方整備局

「仙台空港再生の第一歩」

～仙台空港再生に向けた排水作業が次の段階に～

仙台空港周辺の低平地は、東北地方太平洋沖地震による津波により広範囲にわたって浸水しました。

国土交通省では、国土交通省が全国に配備している排水ポンプ車を集め、名取川河口から阿武隈川河口の湛水区域において、平成 23 年 3 月 20 日から広範囲の湛水解消を重点的、機動的に実施しています。

仙台空港周辺では、名取市や岩沼市、土地改良区等の協力を得て、この1週間の緊急排水で水位が低下したことによって、陸上自衛隊の捜索活動が開始されたほか、水没していた仙台空港アクセス線のトンネル部が水面上に姿を現しました。28日からは、仙台空港アクセス線再開に向けてトンネル内の排水に着手します。

【緊急排水概要(3月26日時点)】

- ・排水ポンプ車配備延べ台数 176 台・日
 - ・排水開始 3月20日(一部は13日から開始)
 - ・これまでに排水された量 約 440 万 m³※
- ※一般的な 25m プール(25m×12m×1.2m)で換算すると約 12,200 杯分に相当

※ 概要は、別紙の通りです。

<記者発表先:宮城県県政記者会、東北電力記者クラブ、東北専門記者会>

<問い合わせ先>

国土交通省 東北地方整備局 Tel.022-225-2171(代)
河川部 水災害予報企画官 山本 晶 (内線 3521)

「仙台空港再生」の第一歩

平成23年3月27日現在

～仙台空港再生に向けた排水作業が次の段階に～

仙台空港周辺の低平地は、東北地方太平洋沖地震による津波により広範囲にわたって浸水しました。国土交通省では、国土交通省が全国に配備している排水ポンプ車を集め、名取川河口から阿武隈川河口の湛水区域において、平成23年3月20日から広範囲の湛水解消を重点的、機動的に実施しています。仙台空港周辺では、名取市や岩沼市、土地改良区等の協力を得て、この1週間の緊急排水で水位が低下したことによって、陸上自衛隊の捜索活動が開始されたほか、水没していた仙台空港アクセス線のトンネル部が水面上に姿を現しました。28日からは、仙台空港アクセス線再開に向けてトンネル内の排水に着手します。

【緊急排水概要(3月26日時点)】

- 排水ポンプ車配備延べ台数 176台・日
 - 排水開始 3月20日(一部は13日から開始)
 - [試算]これまでに排水された量 約440万m³※
- ※25mプール(25×12×1.2)の約12,200杯分に相当。水量は、ポンプ車で排水したおおよその量であり、湛水量の他降水量や流域の排水量も含む。



平成23年3月13日撮影



【仙台空港北部の湛水状況】

平成23年3月27日撮影



・3月13日時点に比べ、浸水範囲が縮小し、畦畔が露出しています。
・仙台空港アクセス線のトンネル出入口部の状況が確認可能となっています。

重点排水箇所の排水効果の状況(名取市・岩沼市)

平成23年3月27日現在

【仙台東部地区位置図(名取川～阿武隈川)】

【現地状況写真】



- 凡例
- : 湛水範囲
 - : 排水路等
 - : 市町村境
 - : 排水ポンプ車配置箇所
 - ← : 撮影方向



ポンプ車(60m³/min、40m³/min、30m³/min級)稼働状況



湛水範囲は、3月19日時点に比べ、湛水深の減少に伴い、地表や畦畔が露出している状況が確認できます。

